

診療情報を集めて行う臨床研究に関するお知らせとお願い

介護老人保健施設清雅苑（訪問リハビリテーションセンター清雅苑）では、「訪問リハビリテーション利用者のADL,IADLへの効果的な支援内容についての検討」に取り組んでいます。

研究の概要

訪問リハビリを含む、高齢者の地域におけるリハビリでは身体機能にかたよったリハビリが実施され、International Classification of Functioning(以下、ICF)における「活動」や「参加」など的高齢者の生活機能全般を向上させるためのリハビリが実施されていないとの課題があるといわれています。2021年4月、科学的裏付けに基づいた介護を実践し、質の高いサービス提供を推進するため、厚生労働省により科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence : 以下、LIFE）が運用開始となりました。LIFEとは介護分野でのリハビリ全体が科学的な根拠に基づいた自立支援・重度化防止に貢献する質の高いサービスの提供を推進することが目的とされており、対象者の基本情報や目標、「機能」、「活動」や「参加」の評価に関するデータを厚生労働省へ送信することで入力内容が分析され、当該施設等にフィードバックされる情報システムです。当事業所においてもLIFEを導入し、データ化したリハビリテーション計画書（以下、リハ計画書）を3ヶ月に1回厚生労働省へ送信しています。利用者への訪問リハビリにおいて、利用者の生活空間の拡大、生活の質の向上を図るためには、心身機能の維持・改善のみならず、日常生活を送るうえで欠かせない基本的な動作である日常生活動作(Activities of Daily Living : 以下、ADL)や日常生活に必要な応用動作や社会生活における活動などの手段的日常生活動作（Instrumental Activities of Daily Living : 以下、IADL）を支援することも重要です。本研究の目的は、ADL、IADLの改善に向けた効果的な支援内容を検討し、訪問リハビリの効果と今後の介入への課題を分析することです。

対象となる方

2021年5月1日から2024年3月31日までに清雅苑訪問リハビリテーションを利用された要介護の方々

利用を開始する予定日

研究実施許可日の2週間後から開始する

研究期間

研究実施許可日 ~ 2024年11月15日

利用する診療情報

年齢、性別、要介護度、主疾患、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、同居者数、利用前の状況、BI、FAI、リハビリテーションの方針、目標(解決すべき課題)、具体的支援内容、利用頻度、利用期間

研究機関の名称：訪問リハビリテーションセンター清雅苑

研究責任者氏名：野尻 晋一

個人情報の取扱いについて

診療情報の利用に関しては、個人情報は全て匿名化されてから解析されますので個人情報が漏れることはありません。また研究結果は、学術雑誌や学会等での発表に使用させて頂くことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。

上記の研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施しております。この研究にあなたの診療情報が利用されることに同意できない場合は対象

と致しませんので、お手数ですが下記のお問い合わせ先にご連絡ください。また、ご不明な点があるとき、または研究計画等に関する資料をお知りになりたい場合は他の対象者の個人情報や研究全体に支障となる事以外はお知らせすることができますので、ご連絡ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用させていただくことに対して同意が得られたものとさせていただきます。また、研究にご協力いただけない場合でもケア上の不利益を被ることはありません。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称

社会医療法人寿量会 理事長 米満弘一郎

お問い合わせ先

介護老人保健施設清雅苑 訪問リハビリテーションセンター清雅苑 作業療法士 中村有紀

T E L : 096-345-8112(内線 7309)、 F A X : 096-345-8188